

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		交流・共働による日本の里山保全——新たな社会価値の創造			
研究テーマ (欧文) AZ		Conservation of Satoyama in Japan by the Coaction ---- The New Creation of Social Value			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)マイ	名)リーサ	研究期間 B	2012～ 2013年
	漢字 CB	邁	麗莎	報告年度 YR	2013年
	ローマ字 CZ	mai	lisha	研究機関名	昭和女子大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		昭和女子大学国際学科特命教授			
<p>概要 EA (600字～800字程度にまとめてください。)</p> <p>この研究は、内モンゴル大学からの要望による海外との共同研究であり、日本の「中山間地域」を舞台に展開した村づくりの過程を、都市と農村をつなぐ観点から考察するものであった。日本の里地里山の保全は、近年、都市と農村をつなぐ多様な活動によって支えられてきた。それには、大学、地域住民、NPO・企業、行政など多様な主体の協働による地域の活性化や伝統文化の再生の創意が見られる。日本では、近年、環境問題が社会的・空間的・時間的なひろがりをもつ中で、その解決には多様な関係主体と関連した政策間の連携が求められるようになってきている。本研究ではその実態と可能性について考察してきた。具体的には次にあげるような作業を行ってきた。</p> <p>資料の収集と調査</p> <p>「自然と文化を生かした地域づくり」の具体例の実証研究を行い、それを通して、多様な主体を持つ社会活動の展開が里山の保全を可能にするということを明らかにした。それに、その可能性が保環境保全に限らず、地域の活性化と伝統文化の保護とも連動できるものであることを確認できた。</p> <p>領域横断の研究と教育の構築</p> <p>近年、日本の大学では、分野横断の研究や融合教育プログラム開拓などの実践が展開されている。それは当該分野における新たな理論の構築と実践の進展をもたらしている。本プロジェクトは、同様の手法による海外研究者との共同研究の構築のための実践を試みた。</p> <p>この取組は、同大学外国語学院が実施する「IT活用—日本語技能の総合的力」と「日本社会」との合同授業により試みられた。具体的には、情報収集、情報活用の学び、即ち、学生たちに、調査項目に関する情報の収集とパワーポイントによる発表といった実践の展開を試みさせた。調査項目の課題は、日本農林水産省、文部科学省、総務省が連携して推進する「子ども農山漁村プロジェクト」についてである。子供の教育と里山保全におけるそれぞれの学問的背景を踏まえた融合プログラムの創出は、本プロジェクトの実施内容を充実させると同時に、同大学の教育内容も充実させ、研究活動を推進するうえで相乗的効果をもたらしている。</p>					
キーワード FA	日本の里山保全	社会価値の創造	領域横断的研究	自然と文化を生かした地域づくり	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA				研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC				シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}	マイリーサ 胡樹							
	書名 ^{HC}	協働する地域づくりと社会教育活動 『东北亚多元共生现状及发展研究』 胡樹編集							
	出版者 ^{HB}	内蒙古大学出版社	発行年 ^{HD}	2	0	1	2	総ページ ^{HE}	591
図書	著者名 ^{HA}	マイリーサ 吳昊							
	書名 ^{HC}	環境保全の過程における社会秩序 『东北亚多元共生现状及发展研究』 胡樹編集							
	出版者 ^{HB}	内蒙古大学出版社	発行年 ^{HD}	2	0	1	2	総ページ ^{HE}	591

欧文概要 EZ

Japan is one of the best countries which reserve natural ecological environment and biological diversity most successfully. The rich diversity of biology lays a foundation for food security, ecological safety and people's healthiness. In Japan, nearly all of the biological diversity distributes in Satoyama. However, to this country with highly developed industry, some vulnerable industries, such as agriculture, forestry and animal husbandry, are in a disadvantageous position in market competition. In order to maintain the diversity of natural environment, the Japanese government has established an interest coordination mechanism in favor of both natural conservation and local development. This also can be seen as an innovation of supporting system of Japanese mountain villages' ecological environmental protection. This paper aims at analyzing this symbiotic mechanism.